

○事業所名	放課後等デイサービス ゆめふうせん			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 10 日 ～ 令和 7 年 3 月 10 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 10 日 ～ 令和 7 年 3 月 10 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 4 月 25 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	視覚支援の徹底と個別支援の柔軟性 - 巻物カレンダーやToDoメモ、コミュメモの活用により、子どもの理解力を支援	支援体制の柔軟な配置と部屋分け - 子どもの相性や状況に応じたスタッフ配置と空間構成を実施	保護者会（にじいろカフェ）の定期化・参加促進 - 保護者同士の情報交換と心理的支援の場として機能強化
2	保護者との連携と情報共有の工夫 - SNS、メール、にじいろカフェ、送迎時の報告などを活用し、信頼関係を構築	終礼・気づきメモによる振り返り - ハインリッヒの法則に基づき、日々の支援内容を反省・改善	長期休暇中の外出活動のさらなる工夫 - 保護者ニーズを受けて、特別感ある活動計画の立案
3	地域との関わりを重視した活動 - 地域住民との交流イベントや、施設外活動の充実を通じて社会性の育成に寄与	法人内研修と事例共有 - 定期的な職員研修と、参加できないスタッフへの資料提供により、支援の質を維持	第三者評価の導入検討 - 理事会による確認だけでなく、外部からの客観的視点の導入

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一部保護者とのコミュニケーション不足 - 「分からない」「どちらともいえない」との回答が散見される	情報提供の手段に偏りがある - SNS中心で、対面・口頭説明の機会が限られている	対面・口頭での情報伝達を増やす - 保護者会、送迎時の会話機会を活用して直接的な理解を促す
2	避難訓練等への感覚過敏児の対応不足 - サイレン等による不安を持つ児童への個別配慮が課題	視覚的支援が行き届いていないケースあり - 全員に最適化された対応ができているとは限らない	個別避難訓練マニュアルの整備 - 感覚過敏など配慮が必要な子どもに向けた訓練計画の工夫
3	苦情対応の周知不足 - 実施されているが、制度や窓口の案内が保護者に十分に伝わっていない可能性	日々の活動内容が保護者に伝わりにくい場面あり - 事業所全体の支援の「見える化」が不十分	苦情対応制度の視覚的周知 - フローチャートや掲示物で保護者にもわかりやすく明示